

1. 評価結果概要表

作成日 平成19年12月20日

【評価実施概要】

事業所番号	3671400160
法人名	社会福祉法人 若穂会
事業所名	グループホーム あい
所在地	徳島県海部郡牟岐町大字川長字山戸45番地 (電話) 0884-72-3636
評価機関名	社会福祉法人 徳島県社会福祉協議会
所在地	徳島県徳島市中昭和町1丁目2番地
訪問調査日	平成19年 12月 10日

【情報提供票より】(平成19年11月25日事業所記入)

(1)組織概要

開設年月日	平成14年 8月 1日
ユニット数	1 ユニット
職員数	9 人
利用定員数計	9 人
常勤	7 人
非常勤	2 人
常勤換算	8 人

(2)建物概要

建物構造	鉄筋造鋼板葺平家建 造り
	1 階建ての 1 階部分

(3)利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	12,400 円	その他の経費(月額)	実費	
敷金	有(円)	(無)		
保証金の有無(入居一時金含む)	有(円)	有りの場合償却の有無	有/無	
食材料費	朝食	150 円	昼食	300 円
	夕食	270 円	おやつ	60 円
	または1日当たり 円			

(4)利用者の概要(11月25日現在)

利用者人数	9 名	男性	0 名	女性	9 名
要介護1	0 名	要介護2	2 名		
要介護3	5 名	要介護4	2 名		
要介護5	0 名	要支援2	0 名		
年齢	平均 87.2 歳	最低 79 歳	最高 98 歳		

(5)協力医療機関

協力医療機関名	・美海クリニック ・徳島県立海部病院 ・堀齒科
---------	-------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

事業所の周辺は、豊かな自然が身近に感じられる環境であり、同じ母体の老健施設、ケアハウスの他、病院が隣接している。また、かかりつけ医が週に何度も気軽にホームへ出向いて来てくれ、利用者、家族、職員にとって安心のできる状況にある。建物の構造も、食堂兼居間を囲むように各居室が配置されており、心地よく落ち着いた雰囲気である。ケアについては、運営者、管理者の熱意や意向を職員がしっかり受け止め、利用者が安心して暮らせるよう支援していこうとする姿勢が見られる。

【重点項目への取り組み状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取り組み、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>利用者案内文に、グループホーム独自の理念を掲げ明確に表記されていた。地域の人達との関わりをより円滑にするためにホームだよりの発行も始めている。その他改善に向けた取り組みがなされている。しかし、重要事項説明書、契約時に入居時の権利、義務の記載が無いため明確に記載されたい。</p>
	<p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>管理者、職員が自己評価の意義や、目的をよく理解し全員で取り組むなど、改善に向けた努力をしている。</p>
重点項目②	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進委員は、2ヶ月に1回開催されている。利用者、家族、町職員、地域包括支援センター職員、地域代表者などで構成されている。会議では、事業所の活動報告や、出席者からの意見や質問を聞き、事業所の運営やサービスの質の向上に活かす取り組みがなされている。</p>
重点項目③	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>毎月家族に対しホームだよりに本人の写真を添え利用者の状況を報告している。玄関に苦情・相談箱を設け、家族が要望や意見を伝えやすい工夫をしている。受けた要望などは記録し、全員で検討しサービスの改善に取り組んでおり、家族にも検討結果を伝えている。</p>
重点項目④	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>近くに文化センターがあり、そこで行われる行事に参加したり、手作り作品を文化祭に出展している。また、併設施設の夏祭りにも参加したり、町内ボランティアの訪問を受けるなど、地域の人達との交流に積極的に取り組んでいる。</p>

2. 評価結果（概要）

（ 部分は重点項目です ）

取り組みを期待したい項目

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	法人共通であったこれまでの理念を見直し、利用者が地域との関係を維持しつつ安心してその人らしい暮らしを継続するための支援を全職員が共通認識し、事業所独自の理念を作り上げている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	管理者と職員は具体的なケアについて意見の統一を図っている。利用者案内文への記載と、事業所内の目につきやすい所へ掲示し、利用者、家族、来訪者にわかりやすい工夫をしている。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	近隣への散歩時には、気軽に地域の人達と挨拶を交わしたり、住民からは収穫物をもらうなど交流が図られている。隣のケアハウスの住民も日常的に往来している。併設している老健施設の行事にも参加し、地域の人達の理解も得られている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	外部評価の意義を管理者・職員は常に話し合いをして、全員で自己評価を行うなど改善に向けた取り組みがなされている。		
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議は2ヶ月に1回開かれ、利用者、家族、町職員、地域包括支援センター職員、地域代表者などで構成されている。事業所の活動計画や出席者から質問や意見、要望に対する話し合いが行われている。会議内容は記録され、全職員にも回覧、報告されサービスの質の向上に活かしているが、確認したサイン等がなかった。	○	会議内容は記録され、全職員にも回覧、報告されているが職員のサインや確認印をされるよう検討されたい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	管理者は運営推進会議以外にも、町へ出向いて報告書を担当職員に手渡し、ホームの実情を知ってもらうよう努めている。職員は月初めに交替で役場へ出向き、情報収集や積極的に交流する機会をつくっている。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々に合わせた報告をしている	毎月利用者の日常生活の状況を手紙で伝えている。写真なども添えて、家族に送付している。家族の訪問時や場合によっては電話でも健康状態や普段の様子を伝えている。金銭出納簿は家族の訪問時などに見てもらい報告しているが、確認の印、サインがない。	○	金銭出納簿を確認してもらい確認印やサインをもらうことを検討されたい。
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	玄関先には意見箱を設置し、苦情担当者も決めて家族が苦情・意見・要望等を出しやすい工夫をしている。意見等があれば記録し職員全員で課題を検討し、サービスの質の向上を目指す取り組みをしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	利用者の不安をやわらげるよう声かけの工夫や引継ぎをしっかりと行い、利用者や新人職員が早く信頼関係が築けるよう配慮している。		
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	月1回は法人内で研修会をしている。職員それぞれのレベルにあった外部研修も積極的に奨めており報告会をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	法人グループ内で交換研修をしたり、外部研修受講時に同業者との交流、情報交換をしている。	○	他の法人の同業者間で交流する機会をつくり職員の更なる質の向上に期待したい。

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心し、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	事前にグループホームのデイサービスを体験利用してもらうなどしてホームに慣れてもらったり、利用者の希望や不安を受け止め安心して生活に馴染めるよう配慮している。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながらか喜ぶ哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と共に日常生活を過ごし支え合う関係作りに取り組み、常に人生の先輩として尊敬し教えてもらう場面づくりをしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常生活の中で、会話や表情により利用者の希望や思いを把握するよう心掛けている。意思疎通の困難な利用者には、家族や関係者から情報を得るようにしている。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者との会話、傾聴、観察や、家族の意思や要望を聞き介護計画に反映させている。職員は常に利用者との関わりの中で気づいたことについて意見交換を行い、計画の内容に反映させる取り組みがされている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	3ヶ月に1回の定期的な見直しの他、変化が生じた場合は、利用者、家族、主治医などと話し合い随時、現状にあった介護計画を作成している。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	事業所はグループホームのデイサービスを実施しており、入居待ちや自宅での生活が困難な利用者の支援を行っている。		
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	隣接病院のかかりつけ医が、不定期であるが頻繁にホームを訪れ、利用者の健康管理や緊急時の対応等、適切な医療が受けられるよう支援されている。また、近隣の協力医療機関である病院とも緊急時の支援を受けている。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期に該当するような利用者がある場合は職員全員で検討し、かかりつけ医とも相談しながら本人や家族の意向に添えるよう支援していく取り組みがなされている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	利用者一人ひとりのプライバシーに配慮した声かけや穏やかで優しい言葉かけの対応がなされていた。職員は今後個人情報保護や利用者に対する接遇の仕方を更に勉強したいと希望しており、質の向上に心掛けている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	利用者一人ひとりの思いやペースを把握し、本人の希望に添うような支援がなされている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員の見守りの中、テーブル拭き、盛り付け、配膳、後片付けなど利用者のできることをしてもらい、職員と一緒に同じテーブルを囲み楽しみながら食事をしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	利用者が希望すれば、いつでも入浴できる体制づくりができています。嫌がる利用者にも無理強いせずに、声かけ、誘導により進んで入浴できるよう支援している。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	洗濯物の片付け、食事の準備、掃除など本人ができることをしてもらっている。ボランティアの指導による手芸作品の文化祭への展示や、各居室入り口の手作りのれん、習字など本人の生きがいや楽しみにつなげるよう支援している。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	本人の希望や体調にあわせて、散歩に出かけている。出会った地域住民との会話や、近くのため池に住む亀やナマズなどに餌をやるのを楽しみにしている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵をかけないケアを管理者職員が共通認識しており、玄関は常に開放されている。来訪者や隣接するケアハウスの入居者が自由にホームへ行き来している。		
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	年1回隣接する法人内施設と合同で避難訓練を実施している。また、年1回、近くの消防署に来てもらい訓練・指導を受け、防災について認識を深めている。		

外部	自己	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	(○印)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(5)その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	併設施設の栄養士によるバランスのとれた食事が提供されており、毎日食事量をチェックして、利用者一人ひとりの体調に合わせた対応ができています。毎食時の水分チェックの他に、居室にはお茶を入れたペットボトルが置かれ、水分摂取量を把握する目安にしています。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1)居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関、食堂などホームの至る所に季節の花が生けられている。廊下や食堂の壁には、利用者がつくった手芸品や習字が掲げられ、各居室の入り口は手作りの、のれんがかけられ季節感や家庭的で落ち着いた空間づくりに配慮されている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	利用者が家庭で使用していた馴染みの家具を配置したり、家族の写真や手作りの小物を置いて、利用者が自分の部屋として居心地よく暮らしていけるような工夫がされている。各居室には温度・湿度計が設置され、職員が空調を調節している。		